

日光市環境基本計画重点プロジェクト 平成 2 3 年度実施状況報告書

日 光 市



目 次

1	はじめに	1
2	平成 2 3 年度プロジェクト別実施概要	1
3	平成 2 3 年度指標及び実施状況	
	光の環プロジェクト	4
	水の環プロジェクト	8
	資源の環プロジェクト	11
	環境にっこの輪プロジェクト	14
4	まとめ（今後の取り組み）	17

1 はじめに

日光市は、連続する森林地帯が広がり、清流・湖沼・湿原などに代表される豊かな自然環境を有しています。しかし、近年の生活様式の変化により、その存続がおびやかされる状況にあります。

この環境を守り、未来に引き継いでいくために、事業者や滞在者を含む生活者一人ひとりが、環境負荷の少ない暮らし方に取り組むとともに、資源・エネルギーの有効活用を進める必要があります。こうした環境の保全と創造に関する施策を推進するため、市では平成21年度に「日光市環境基本計画」を策定し、また、平成22年度には「日光市環境基本条例」を制定しました。

条例において、毎年度、施策の実施状況を明らかにすると規定しており、これに基づき、日光市環境基本計画のなかで特に「重点プロジェクト」として掲げている事項について、実施状況を報告するものです。

2 平成23年度プロジェクト別実施概要

重点プロジェクトは4分野から構成されます。平成22年度から平成26年度までのファーストステップ期間（第1段階）に推進する項目は全部で44項目あり、平成23年度の実施状況は、「完了」が1項目、「実施」が36項目、「検討中」が2項目、「未着手」が5項目となっています。平成22年度と比較すると、検討中や未着手のうち3件が、完了や実施に移行した形となり、順調に進捗しています。内訳は下表のとおりです。

	年度	ファーストステップ				※セカンドステップ着手項目
		完了	実施	検討中	未着手	
光の環プロジェクト	23年度	0	10	1	0	2/7
	22年度	0	8	2	1	2/7
水の環プロジェクト	23年度	0	10	0	0	0/4
	22年度	0	9	1	0	0/4
資源の環プロジェクト	23年度	0	10	1	0	0/4
	22年度	0	10	0	1	0/4
環境にっこの輪プロジェクト	23年度	1	6	0	5	0/4
	22年度	0	7	0	5	0/4
計	23年度	1	36	2	5	2/19
	22年度	0	34	3	7	2/19

各プロジェクトの目標及び平成23年度の実施概要を、次にまとめました。なお、実施状況の詳細については、後段「3 平成23年度指標及び実施状況」に記載しています。

(1) 光の環プロジェクト 地球温暖化防止への貢献 ～低炭素社会づくりに向けて～

プロジェクトの目標

市民・市民団体・事業者・滞在者それぞれが、省資源・省エネルギーに取り組み、また、再生可能エネルギーの利用を促進することで、温室効果ガス排出量を削減し地球温暖化防止へ貢献する。

平成23年度実施概要

省資源・省エネルギーの促進について、平成23年度は東日本大震災後の電力不足を背景に、東日本地域で節電が進みました。市では、環境機関紙「環境にっこう」7月号で家庭の節電に関する特集号を組み、市民に広く節電を呼びかけました。また、夏季に「エコうちわ」を全戸配布したほか、「うちエコ（節電）コンテスト」を実施しました。更に、家庭での緑のカーテン作成用として、市民課や各総合支所、支所・出張所等16箇所の窓口でアサガオの種3000セットを無料配布しました。

市役所では、6月～9月に「節電アクション」に取り組み、庁舎等に係る電気使用量について前年度比34.5%、教育・福祉関係など市民が利用する施設について10.6%の節電が達成できました。また、節電が大きな要因となって、市役所から排出する温室効果ガスについても前年度比7.9%の削減ができました。

再生可能エネルギーの利用促進として、住宅用太陽光発電設備の設置補助事業を継続実施しています。補助件数累計は、平成31年度の目標値1,255件に対し、平成23年度で462件（達成率36.8%）となり、順調に伸びています。また、市の施設への太陽光発電設備については、平成23年度中に湯西川水処理センター及びかたくりの湯に設置し、目標の300kwのうち85%の設置を達成しました。

また、環境にやさしい電気自動車による市内周遊を促進するため、自動車用急速充電器を市内施設3ヶ所に設置しました。

(2) 水の環プロジェクト 水環境の保全と活用 ～水の循環を活かしたまちづくりに向けて～

プロジェクトの目標

良好な水環境を保全しながら、保全活動を通じての交流を活発化するとともに、水環境の情報発信を図るなど、豊かな水資源を有効に活用する。

平成23年度実施概要

河川・湖沼等公共水域の水質については、環境基準を維持しています。これは、工場や事業所からの排水を定期的に調査分析して水質の監視に努めたほか、平成21年度以降に市内2ヶ所の水処理センターが順次開所し、水質向上に寄与しているものと考えられます。更に、下水道の水洗化率も向上しています。

水環境の保全活動として、毎年度、湯ノ湖のコカナダモ除去作業を実施しているほか、湯ノ湖や中禅寺湖を中心とした地元の保全活動団体に対して、県とともにその活動を支援しました。また、今市地域内において活動している湧水ボランティアへの水環境調査の支援を行なうなど、地元住民による保全活動の活性化を図っています。

市の水道水で「おいしい水」基準を達成している浄水場や給水栓の割合は、平成23年度で86%となり、平成22年度の74%に比べ向上しています。これは、塩素の注入地点や注入量設定見直しを図ったことによるものです。

水資源の再発見として取り組んでいる「日光水のある風景百選」事業については、平成

23年度から風景の募集を開始し、平成24年度中に百選を選定し公表する予定です。

(3) 資源の循環プロジェクト ごみ減量の推進 ～3Rによる資源が循環するまちづくりに向けて～

プロジェクトの目標

環境美化意識を高めて清潔な環境を維持するとともに、ごみの減量化と再生利用を進め、ごみゼロを目指す資源循環型社会をつくる。

平成23年度実施概要

ごみ分別の徹底、生ごみの水切り徹底などを「広報にっこう」や「環境にっこう」で繰り返し周知したほか、学校等への出前講座で意識啓発を図ってきました。その結果、平成23年度の1人1日当たりのごみの排出量及び年間ごみ排出量は、平成22年度に比べていずれも僅かながら減少しています。

ごみ減量化事業として、生ごみ処理器設置補助事業を継続実施しています。年間の補助件数について、平成23年度は19件補助し、平成22年度の14件に比べて増加していますが、累計目標値である平成31年度の650件に対して、平成23年度は172件（達成率26.5%）と、達成に向けてやや厳しい状況にあります。

ごみ減量化と併せて推進しているごみの資源化について、資源物回収団体への報奨事業を継続実施しています。また、ごみの発生抑制・リサイクル等に積極的に取り組む店舗を「エコショップ」として認定しPRする制度について、平成24年度の実施要綱制定に向け、平成23年度に検討に入りました。

全市をあげて取り組む「全市クリーン大作戦」は、例年どおり6月と10月に実施しました。平成22年度実施時に、粗大ごみ等の取り扱いについて課題が残ったため、平成23年度は、6月実施時に可燃ごみと不燃ごみ、10月実施時に粗大ごみ等と、対象を分けて実施することにより、課題の改善を図りました。

(4) 環境にっこうの輪プロジェクト 環境学習・環境情報 ～豊かな環境交流があるまちづくりに向けて～

プロジェクトの目標

環境教育・環境学習を推進し、環境情報を発信することで、一人ひとりの環境意識を高め、環境保全活動の輪を広げる。

平成23年度実施概要

日光クリーンセンター内「日光環境学習センター」と、足尾銅親水公園内「足尾環境学習センター」の来場者数を合わせ、年間2万人を上回る見学者が県内外から訪れており、環境教育に大きく貢献しましたが、原発事故による風評被害の影響を受け、平成23年度の来場者は平成22年度に比べて約24%の減となりました。

市内の環境学習会については、市民及び学校教育の場において環境への関心が高まっていることを背景に、開催回数が増加傾向にあります。

また、環境機関紙「環境にっこう」を年4回発行して、市民に対し、身近な環境情報や美化の推進等について情報を発信し、環境意識の喚起を行ないました。また、市ホームページの環境ページを充実させ、市内外に向けて環境情報を詳しく発信しました。

3 平成23年度指標及び実施状況

計画期間前半のファーストステップ（第1段階：平成22年度～平成26年度）に実施する項目は、全部で44項目あり、順次着手しています。その実施状況を次にまとめました。

また、計画期間後半のセカンドステップ（第2段階：平成27年度～平成31年度）の実施項目のなかでも、既に着手済みのものは、ファーストステップと同様に実施状況をまとめています。

プロジェクト1：「光の環プロジェクト」の指標

地球にやさしい行動推進(エコライフ・省資源)

1)地球温暖化防止運動への参加	現状値* (単位)		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	最終31年度
”とちぎ発”ストップ温暖化アクション(栃木県事業)への参加者	9,901	人	7,443	23年度から県事業の内容と集計方法が変更され参加者数を指標として比較することが適当でなくなった為、指標の比較を見合わせます。				20,000
ライトダウンキャンペーン参加団体	19	団体	26	9				250
2)地球温暖化防止に関する環境学習の推進								
地球温暖化防止学習会の開催	6	回	1	1				10
	293	人	200	24				500

温室効果ガス排出量の削減

3)日光市役所環境配慮率先行動計画の推進								
市施設の温室効果ガス排出削減	(H19年度) 30,422	t	29,249	26,940				25,859 (15%削減)
低公害車(庁用車)保有台数	6	台	18	19				10%
	1.2	%	3.8	4.0				
4)低炭素社会への取り組み								
市全域からの温室効果ガス排出削減	(H18年度) 676,853	t	655,908 3.1%削減					609,168 (10%削減)

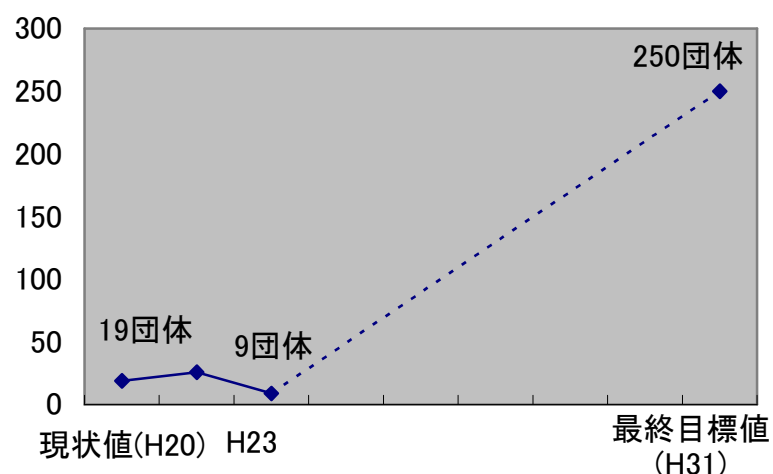
再生可能エネルギー利用の推進

5)太陽光発電システムの導入促進								
住宅用太陽光発電システム設置補助数(累計)	111	件	303	462				1,255
市施設への太陽光発電システムの導入(累計)	1	施設	2	4				12
	100	kw	104	254				300

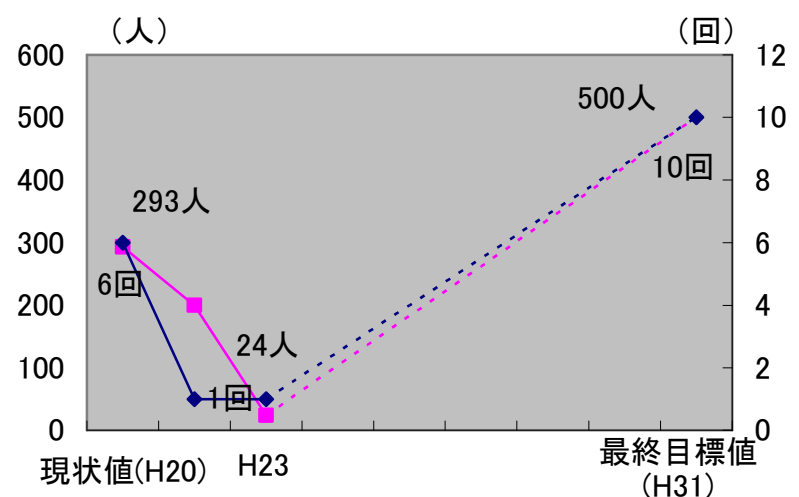
国のデータ公開時期の都合により、現時点で1年度前までしか算定できません。

現状値*) 特に年度記載がない場合は、平成20年度値を採用。以降、いずれのプロジェクトも同様。

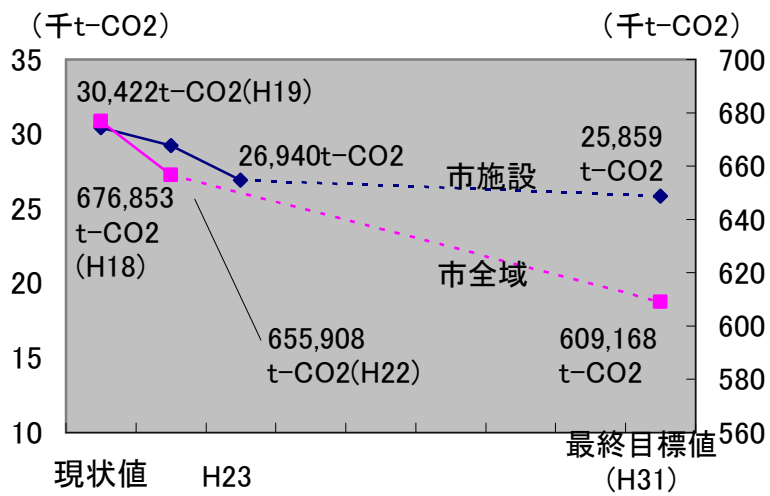
【指標名】ライトダウンキャンペーン参加団体



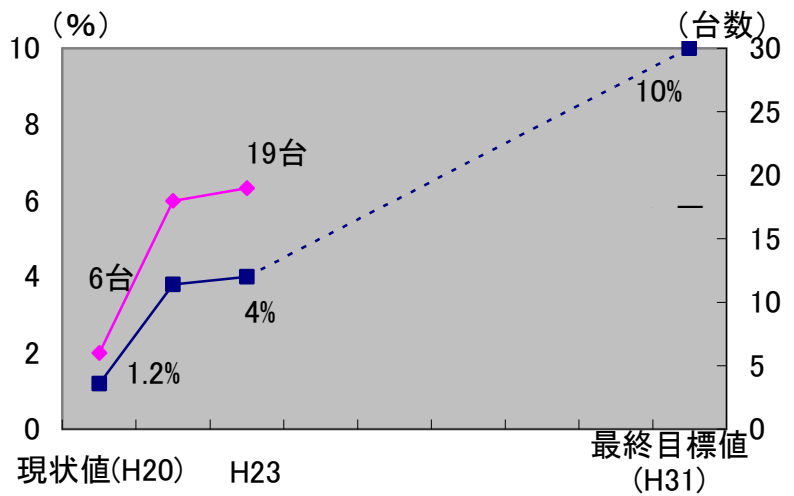
【指標名】地球温暖化防止学習会の開催



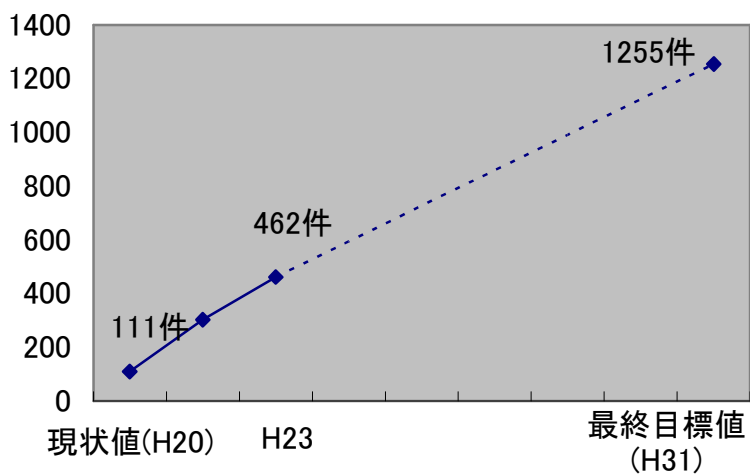
【指標】市施設の温室効果ガス排出削減
市全域からの温室効果ガス排出削減



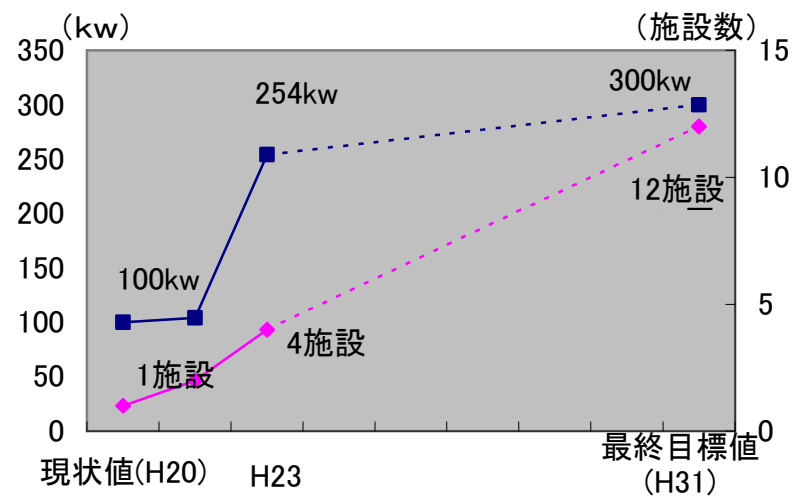
【指標名】低公害車（庁用車）保有台数



【指標名】住宅用太陽光発電システム設置補助数（累計）



【指標名】市施設への太陽光発電システムの導入（累計）



「光の環プロジェクト」の実施項目

[ファーストステップ]

No	項目	進捗及び平成23年度実施内容				
		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
1101	“とちぎ発” ストップ温暖化アクションの普及（きっかけづくり）	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施	●————→			
<p>栃木県の事業である見出しの項目について、平成23年度は節電に特化し、「“とちぎ” 発 節電アクション大作戦」として、節電を通して温暖化防止に取り組む形となりました。日光市もこれに合わせ、23年7月に発行した「環境にっこう」を節電特集号とし、市民に対して広く節電への呼びかけを行いました。</p> <p>また、市では6月～9月に「日光市役所節電アクション」に取り組み、庁舎等市が直接利用する施設について前年度比34.5%、教育・福祉関係等市民が利用する施設について前年度比10.6%の節電が達成できました。</p>						
1102	エコアイデアの整理・情報提供	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施	●————→			
<p>通常は冬季に実施する「“うちエコ” コンテスト」について、平成23年度は節電対策として夏季に実施し、120世帯406名の応募がありました。応募用紙に寄せられた夏の節電アイデアを集約して「環境にっこう」で情報提供しました。</p>						
1103	ライトダウンキャンペーンの普及（きっかけづくり）	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施	●————→			
<p>「広報にっこう」に、ライトダウンキャンペーンへの参加を促進する記事を掲載したほか、小佐越にある市の電光掲示板にも案内表示し、市民に対して広く普及啓発を図りました。また、市役所もライトダウンキャンペーンに参加しました。</p>						

1104	太陽光発電（住宅用太陽光発電設置補助、公共施設への太陽光発電施設設置）の推進	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施 ● →				
		<p>平成23年度の住宅向け太陽光発電の設置補助実績は、159件（18,141千円）で、対前年度比139.5%という高い伸び率となりました。平成24年度は、国の再生可能エネルギー固定価格買取制度が開始されたため、平成23年度の件数を更に上回るペースで補助申請が進んでいます。</p> <p>また、市の施設における設置状況は、次のとおりです。</p> <p>【瀬尾浄水場】H13～,100kw 【リサイクルセンター】H22～,4kw 【湯西川水処理センター】H23～,50kw 【かたくりの湯】H23～,100kw</p> <p>なお、市では、平成23年度に策定した「日光市庁舎整備指針」のなかで、今後整備する総合支所等庁舎については、太陽光発電設備を設置するものとなりました。</p>				
1105	その他再生可能エネルギー利用の検討	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		検討中	実施			
		<p>東日本大震災に伴う原発事故以降、再生可能エネルギーへの関心が高まり、国策としても再生可能エネルギーに注力していく状況を背景に、市では、太陽光、小水力、バイオマス等を中心として、市内で再生可能エネルギーの利活用を拡大する手法について、調査・研究を進めています。</p>				
1106	エコドライブの普及（きっかけづくり）	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		検討中 ● →				
		<p>市民を対象としたエコドライブの普及啓発事業については、引き続き実施を検討中です。</p> <p>一方、栃木県が平成22年度に経済産業省で選定する「EV（電気自動車）・PHV（プラグインハイブリッド車）タウン」に選ばれ、EV・PHVタウン構想を重点施策と位置づけたことを受け、日光市もエコドライブ事業より先に、セカンドステップにあたる「低公害車（エコカー）の普及・拡大」に着手しました（詳しくは後段セカンドステップ「低公害車（エコカー）の普及・拡大」参照）。</p>				
1107	住宅用高効率給湯器設置費補助など省エネルギー機器補助制度の検討	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		未着手	実施			
		<p>市民の省エネルギー意識が非常に高まっているため、住宅向け太陽光発電設備の補助のほかに、特に家庭における発電・蓄電に係る機器等に対する補助制度の導入を検討中です。</p>				
1108	とちぎの元気な森づくり県民税の活用	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施 ● →				
		<p>平成23年度中に里山林の整備を29.1ha、平成22年度までの整備箇所を147.85ha実施しました。また、森林への理解促進のため、間伐材等を活用した木工教室や、6校が森林環境学習を実施しました。平成24年度以降も、同様の事業を展開していく予定です。</p> <p>【各学校の事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校植栽環境整備 ・ 湯西川の自然を知ろう ・ 木道設置 ・ 植樹活動 ・ 炭焼き窯、ピザ窯設置 ・ 収穫祭 ・ 花壇、農園整備 ・ 腐葉土作り ・ 炭焼き活動 ・ 学校林愛護活動 				
1109	森林の整備・森林資源の利活用の検討	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施 ● →				
		<p>平成23年度は、日光市森林整備計画に基づく除間伐118.02haに対する支援を実施しました。また、間伐材の利活用については、公共施設で使用するパンフレット展示棚や木製ベンチの製作などを実施しました。平成24年度以降も、同様の事業の展開及び、森林資源の民間利活用についての啓発等を行なっていく予定です。</p>				

1110	日光市職員エコアクション運動の実践	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施 ●————→				
		県が呼びかける「エコ通勤統一行動（年2回）」を市職員に周知し、平成23年度は9/14及び12/14に実施したところ、それぞれのエコ通勤実施率は、通常時5%のところそれぞれ27%と25%という結果となりました（県職員の実施率：通常時33%→38%）。統一行動日の取組意識は比較的高いため、今後も周知を徹底して、更なる実施率の向上を目指します。				
1111	日光市役所環境配慮率先行動計画の推進	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施 ●————→				
		平成23年度のCO2排出量は26,940t-CO2でした。基準年度である平成19年度の排出量30,391 t-CO2に比べ、11.4%の削減となっています。節電への取組効果により、平成26年度に10%削減という目標を上回りました。環境基本計画では平成31年度に15%削減という長期目標を掲げており、これに向けて今後も更なる削減を目指します。				

〔セカンドステップ〕

No	項目	進捗及び平成23年度実施内容				
1203	低公害車（エコカー）の普及・拡大	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		検討中 実施				
		平成23年度は、市内施設3ヶ所（今市宿市縁ひろば、日光御幸町第2駐車場、湯の郷湯西川観光センター）に電気自動車用の急速充電器を設置し、電気自動車の利用拡大を図りました。 平成24年度は、同所にプラグインハイブリッド車も利用できる普通充電器を併設するほか、急速・普通充電器の設置助成や、家庭用の自動車用充電コンセント工事助成を実施し、更なる普及・拡大を図ります。				
1205	市役所の温室効果ガス排出削減	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施 ●————→				
		平成22年度から実施している「日光市役所環境配慮率先行動計画」に基づき、市役所からの温室効果ガス排出を削減しています（詳しくは前出「日光市役所環境配慮率先行動計画の推進」参照）。				

上記以外のセカンドステップ

- 1201 環境家計簿など日常的な環境配慮（行動）の実践・温室効果ガス排出削減
- 1202 地域新エネルギービジョンの推進
- 1203 低公害車（エコカー）の普及・拡大
- 1204 CO₂吸収源としての森林整備、森林対策の検討
- 1205 市役所の温室効果ガス排出削減

プロジェクト2：「水の環プロジェクト」の指標

奥日光の清流保全

1) 奥日光環境保全事業の推進、奥日光清流清湖保全協議会活動への支援

		現状値 (単位)	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	最終31年度
コカナダモの除去等による水質浄化対策(機械刈取り)		3 日	5	4				拡大検討
奥日光第2期計画目標	湯ノ湖	2.4 COD	2.2	2.3				2.0
		0.41 T-N	0.38	0.33				0.40
		0.022 T-P	0.013	0.014				0.020
	湯川	2.7 透明度m	3.8	2.9				3.6
	中禅寺湖	1.2 BOD	0.9	0.8				1.0
		1.9 COD	1.2	1.3				1.6
		0.007 T-P	0.005	0.004				0.005
		8.0 透明度m	9.3	8.0				10.0

※

良好な水環境の保全

2) 公共水域の水質の環境保全

公共水域の水質の環境基準達成状況	達成		維持	維持				達成・維持
------------------	----	--	----	----	--	--	--	-------

3) 生活排水対策の推進

生活排水普及率	74.4	%	76.9	78				77
公共下水道水洗化率	87.8	%	89.6	91				93
合併浄化槽の設置基数	2,729	基	3,017	3,168				4,340

※

水の交流づくり(水を守る活動等流域の交流づくり)

4) 水を守るボランティア活動の推進

湧水ボランティア数	26	人	31	40				50
水環境保全活動実施回数	10	回	18	13				30

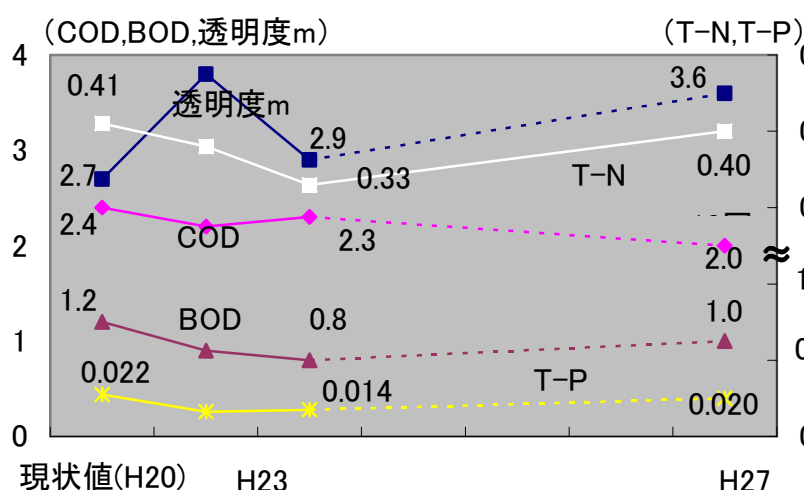
豊かな水資源の活用

5) 豊かな水資源の活用

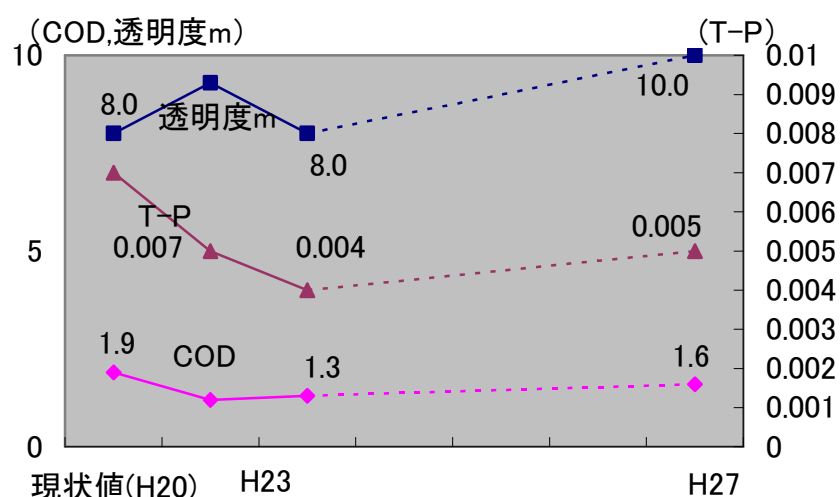
おいしい水(水道水)		%	74.0	86				全水道で基準達成
アクアスポットの整備	29	箇所	29	29				39
日光の水百選(水資源再発見)				募集中				

※については、平成27年度を目安とした目標値です。

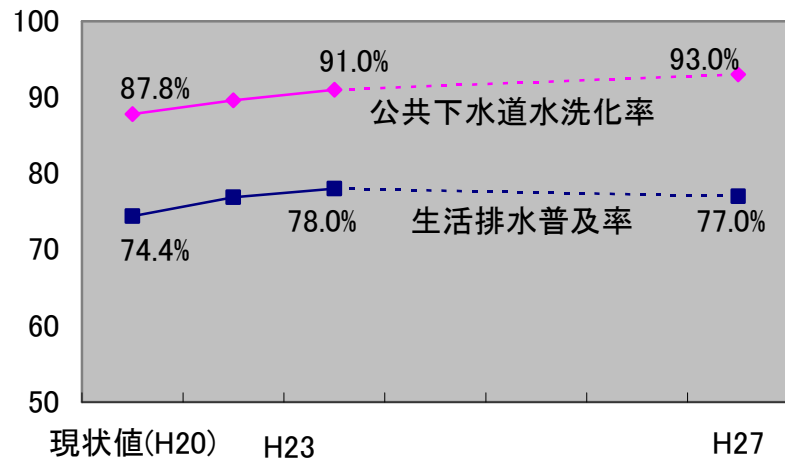
【指標名】奥日光第2期計画目標(湯ノ湖、湯川)



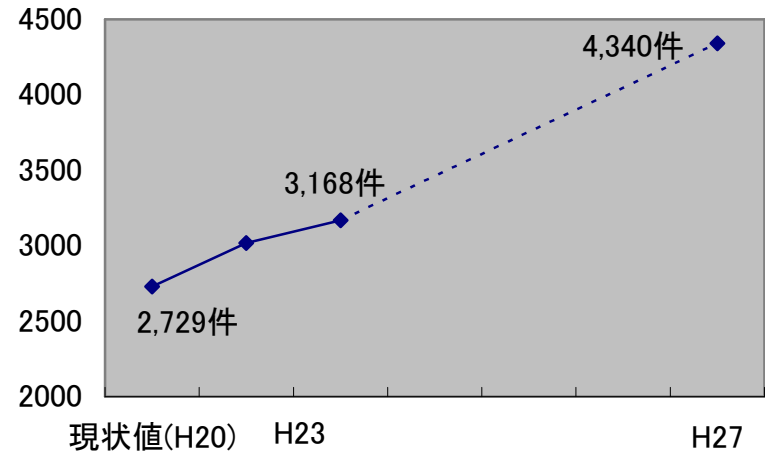
【指標名】奥日光第2期計画目標(中禅寺湖)



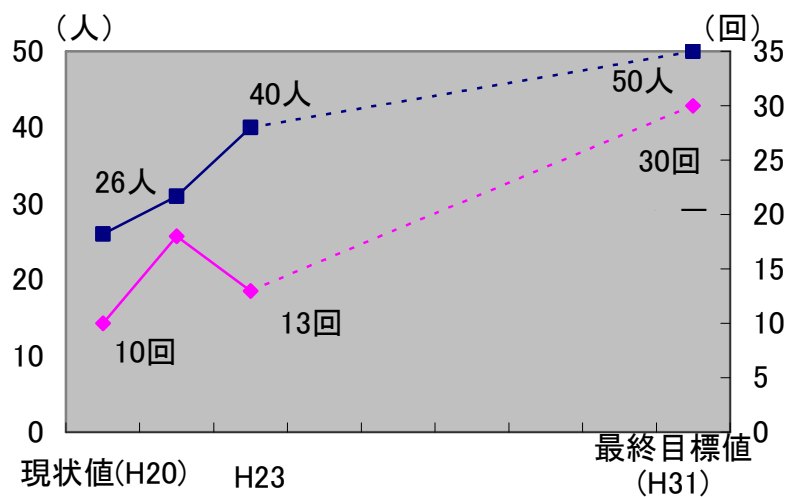
【指標名】生活排水普及率
公共下水道水洗化率



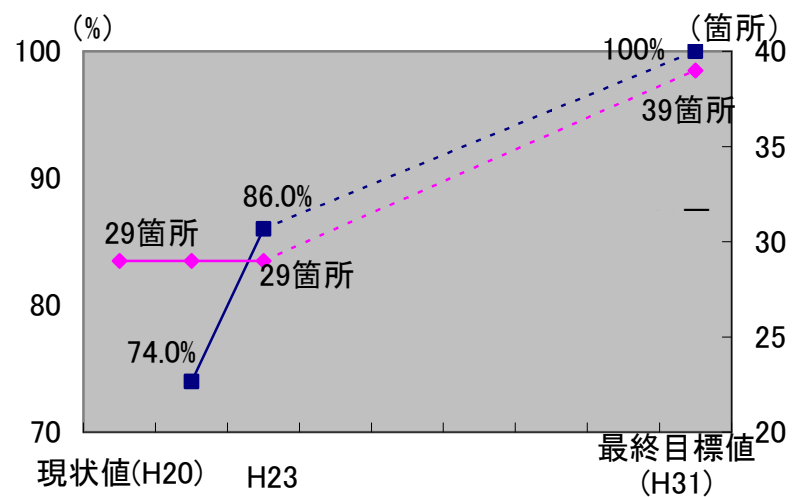
【指標名】合併浄化槽の設置基数



【指標名】湧水ボランティア数(人)
水環境保全活動実施回数(回)



【指標名】おいしい水(水道水) (%)
アクアスポットの整備(箇所)



「水の環プロジェクト」の実施項目

[ファーストステップ]

No	項目	進捗及び平成23年度実施内容				
		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
2101	奥日光清流清湖保全協議会・湯ノ湖中禅寺湖をきれいにする会活動への支援	実施	●→			
		奥日光清流清湖保全協議会の運営に参画し財政的支援を行うとともに、同協議会の事業である「湯ノ湖水草コカナダモ人力刈取及び湖畔清掃」・「水環境学習会(奥日光水辺のたんけん隊)」・「奥日光環境学習推進事業(奥日光水環境保全セミナー)」等に対して支援しました。 湯ノ湖中禅寺湖をきれいにする会及び奥日光水の会についても、それぞれの団体が実施した湖沼水質保全に係る啓発事業や水質調査、清掃活動等に対して支援しました。				
2102	コカナダモの機械刈取りの推進	実施	●→			
		県と市の共同事業である4日間のコカナダモ機械刈取りに加えて、平成23年度より市単独事業として、コカナダモの流下防止対策を5月から9月まで行いました。なお、春の人力刈取は、コカナダモの生育不良と震災の影響により中止しました。				
2103	湯ノ湖水質保全対策の検討	実施	●→			
		県・関係機関と連携し、地元を交え水環境保全事業に取り組んでいる中で、水質の変化と原因究明に努めるとともに随時協議し対応をしているところです。 湯元水処理センターでは、高度処理によるリンの除去と併せて平成23年度からは窒素除去装置の本格稼働を開始し、湯ノ湖への排出水の水質向上に努めています。				

2104	事業者排水対策の推進（排水調査・環境保全協定等）	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施	●	→		
		市と環境保全協定を締結している工場や事業場から公共用水域に排出される水を定期的に分析し、公共用水域及び地下水の水質汚濁の防止を図ることにより、市民の健康を保護するとともに、生活環境の保全を図っています。				
2105	生活排水対策の推進（下水道整備・水洗化の促進・合併処理浄化槽の整備）	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施	●	→		
		下水道管渠施設整備を推進することにより、供用開始区域の拡大を図るとともに、供用開始済区域内における下水道未接続世帯への戸別訪問による啓発活動やアンケート調査を実施しました。 合併処理浄化槽設置の促進については、下水道認可区域外における設置費補助事業を引き続き実施するほか、補助制度等の周知、水環境保全のための合併処理浄化槽への転換の必要性の啓発を市広報掲載により実施しました。 また、単独処理浄化槽の水環境への影響を考慮し、下水道への接続・合併処理浄化槽への転換を促進するため、単独処理浄化槽撤去費補助制度の検討を進め、平成24年度より実施することとしました。				
2106	農地・水・保全管理事業の推進	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施	●	→		
		当事業は、農地・農業用水路等資源の基礎的な保全管理活動や農村環境保全活動に対する支援（共同活動）と、老朽化が進む農地周りの施設の長寿命化のための活動に対する支援（向上活動）とで構成されています。平成23年度は、共同活動12団体・向上活動15団体が実施しました。 平成24年度は、新たに共同活動15団体・向上活動12団体が加わり、地域共同で当事業に取り組む予定です。				
2107	湧水ボランティアによる水環境調査	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施	●	→		
		湧水ボランティアの会員数は年々増えており、平成23年度は40名の方が調査を実施しました。調査回数は年4回で、湧水の状況や簡易な水質検査キットによる水質調査も併せて実施しています。				
2108	日光の水百選の選定（再発見）	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		検討中	実施			
		平成23年度に募集を開始し、平成25年3月に百選を公表するスケジュールで実施中です。				
2109	『アクアスポット』、日光の水百選の普及啓発	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施	●	→		
		日光商工会議所で作成したアクアスポットのパンフレットを、観光部に設置・提供しています。また、平成23年度から市で「日光水のある風景百選」事業を実施し、前項目のとおり平成25年3月に百選を選定して周知を図る予定です。				
2110	水道水の水質検査の公表、水道水のおいしい水基準の達成	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施	●	→		
		平成20年度より水質検査の公表を開始し、平成22年度からは市ホームページにより公表しています。 水質検査している50ヶ所の給水栓のうち、おいしい水の基準に43ヶ所が適合しています。適合していない7ヶ所は、残留塩素濃度超過による不適合となっています。 残留塩素濃度超過による不適合につきましては、注入地点や塩素注入機器の注入量の設定等見直しを行い、おいしい水基準達成を図ります。				

〔セカンドステップ〕

- 2201 奥日光水域の水質改善対策の推進、水質浄化
- 2202 市民参加の水生生物調査の実施
- 2203 水の環境学習交流プログラムづくり
- 2204 日光のおいしい水の普及・啓発

プロジェクト3：「資源の環プロジェクト」の指標

3Rの推進(行政の取り組み)

1)ごみの減量化

	現状値	(単位)	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	最終31年度
1人1日当たりのごみの排出量	1,177	g/人/日	1,191	1,172				1,060
年間ごみ排出量	39,908	t/年	39,615	38,568				32,422
生ごみ処理機器設置補助数	104	件(累計)	153	172				650

2)リサイクルの推進

クリーンセンター等における再生利用率	14.0	%	16.0	15.9				24.0
クリーンセンター等における最終処分率	13.1	%	5.4	4.6				5.0

3Rのしくみづくり(市民・事業者の取り組み)

3)エコショップの普及

エコショップ認定の普及	0	店	0	0				50
資源物回収団体活動	50	団体	49	50				100

環境交流都市 日光クリーン大作戦

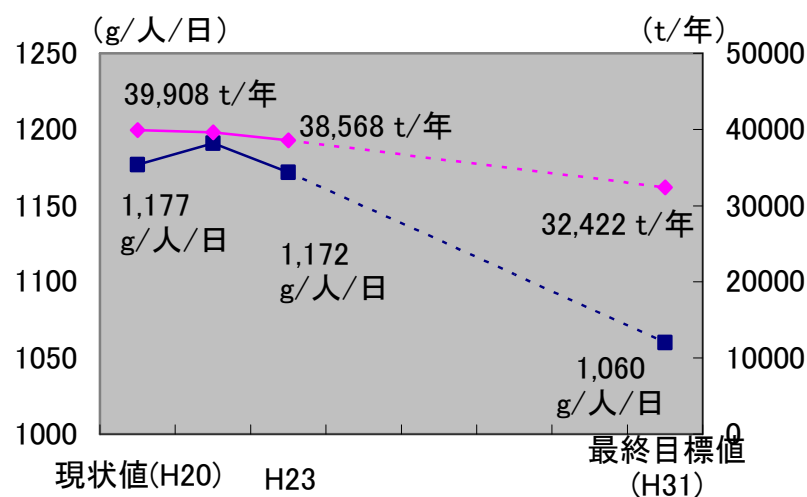
4)全市クリーン大作戦

参加団体数・参加者数	167	団体	242	301				250
	19,444	人	19,701	17,353				30,000

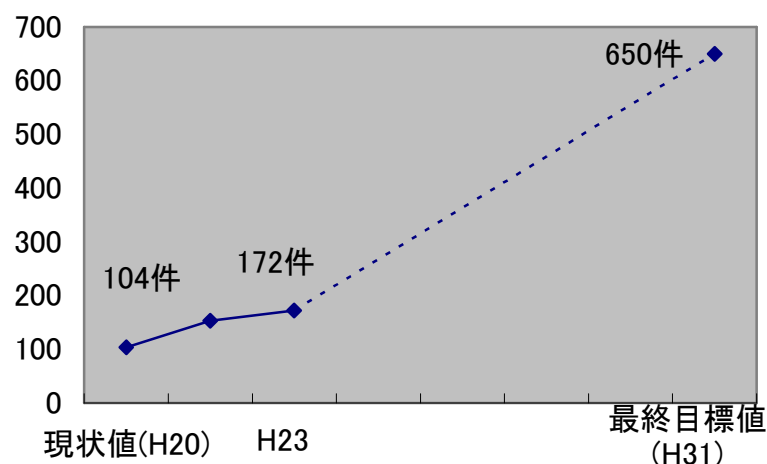
5)クリーンパートナー支援

クリーンパートナー団体数	29	団体	39	41				43
--------------	----	----	----	----	--	--	--	----

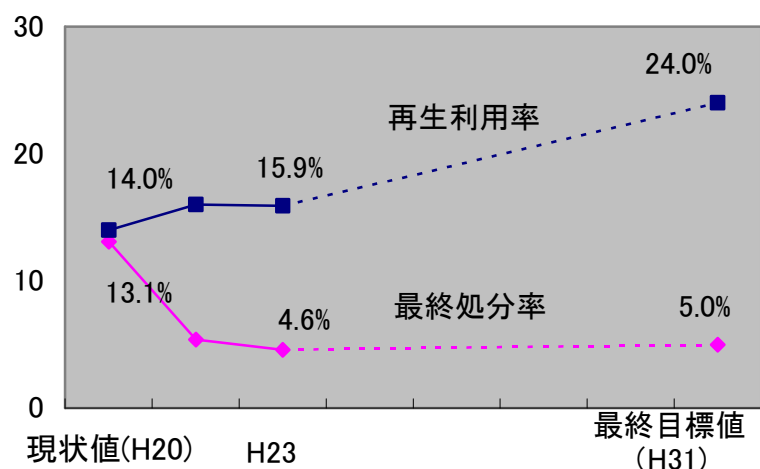
【指標名】 1人1日あたりのごみの排出量 (g/人/日)
年間ごみ排出量 (t/年)



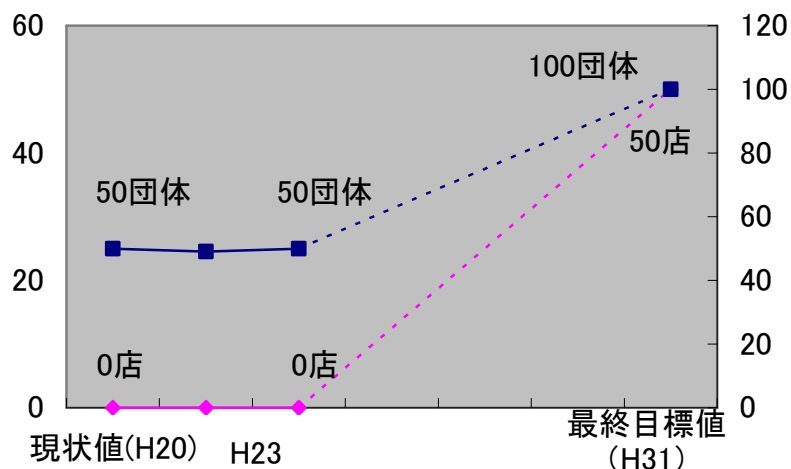
【指標名】 生ごみ処理機器設置補助数



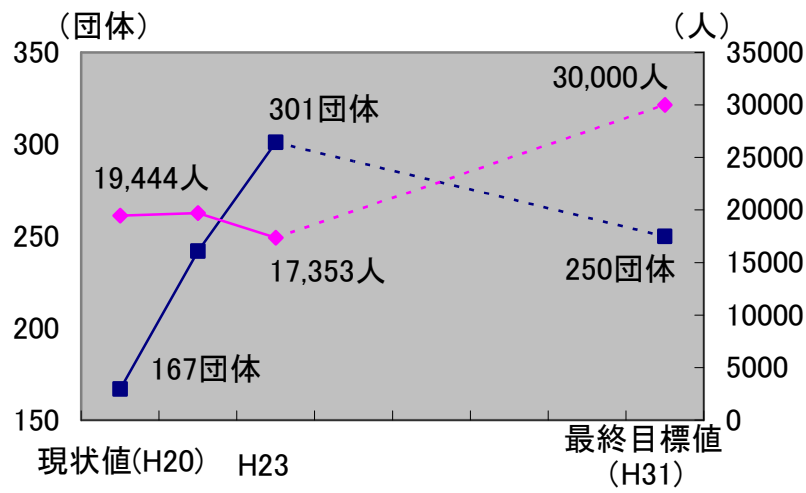
【指標名】 クリーンセンター等における再生利用率
クリーンセンター等における最終処分率



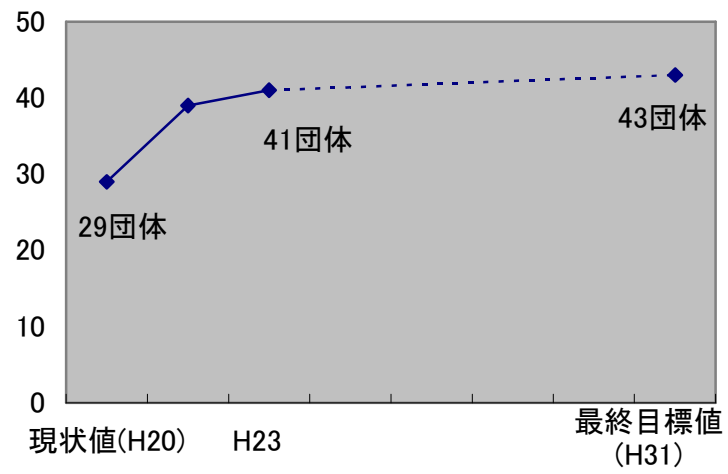
【指標名】 エコショップ認定の普及 (店)
資源物回収団体活動 (団体)



【指標名】全市クリーン大作戦参加団体数・参加者数



【指標名】クリーンパートナー団体数



「資源の環プロジェクト」の実施項目

[ファーストステップ]

No	項目	進捗及び平成23年度実施内容				
		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
3101	ごみ分別の徹底（紙類の4分別など）	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施 ● →				
紙類分別の徹底することで1人1日当たりのごみ量減少と再生利用率の向上が図れることについて、広報紙による周知の他学校等への出前講座で周知を行いました。平成23年度実績では、1人1日当たりのごみ量が前年比で19グラム減少（1.6%減少）したものの、再生利用率は変化がありませんでした。 今後は、学校等への出前講座や広報等による周知のほか、古紙の収集体制についても検討を行ないます						
3102	生ごみの水切り徹底	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施 ● →				
生ごみの水切り徹底のため、「環境にっこう」を利用し、生ごみの水切りの大切さを周知するとともに、学校等への出前講座の中でも取り上げ、水切りによる生ごみの減量をお願いしてきたところです。 1人1日当たりのごみ量も平成22年度から23年度では、1,191グラムから1,172グラムと19グラム減少しましたが、更なる減少のためには生ごみの水切りは非常に有効であるため、引き続き周知を行います。						
3103	マイバッグ運動の推進	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施 ● →				
スーパーの店頭やイベントにあわせて、マイバックキャンペーンを実施し、マイバッグの利用を呼びかけました。（計7回）						
3104	資源物回収団体の普及	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施 ● →				
資源物回収団体の普及のため、「環境にっこう」を利用し制度の周知を行ないました。しかしながら、資源物回収実施団体は平成22年度の49団体から1団体増の50団体にとどまり、平成31年度目標の100団体を達成するには厳しい状況となっています。そのため、平成24年度には回収実施団体への報奨金の上限を年間80,000円から100,000円に増額し、資源物回収団体数と資源物回収量の増加を図ることとしました。						
3105	生ごみ処理機器設置費補助の推進	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施 ● →				
生ごみ処理機器設置費補助の推進のため、「広報にっこう」「環境にっこう」を利用し制度の周知を行なった結果、平成22年度の補助件数14件から平成23年度は19件に増加しました。更なる増加のため、引き続き周知を行います。						

3106	新リサイクルセンターの再編整備	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施 ●————→				
		平成23年度には、リサイクルセンター内の焼却施設解体を実施しました。平成24年度には、この解体跡地に資源物処理施設の整備と資源物等のストックヤード整備を予定しており、粗大ごみ・不燃ごみ・資源物の処理の安定化を図ります。				
3107	エコショップ認定制度の検討	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		未着手	検討中			
		平成23年度は、先進自治体の事例について情報収集を行い、制度について検討しました。今後は、これらの情報を基に要綱等の整備を進めます。				
3108	クリーンパートナー制度の推進	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施 ●————→				
		平成23年度中に2件の新規登録申請があり、平成23年度末時点の登録団体は41件となっています。内訳は、市道対象が32件、公園対象が3件、市道及び公園・広場対象が6件となっています。				
3109	環境美化委員活動の活性化	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施 ●————→				
		環境美化委員活動の活性化を図るため、環境美化委員会全体での事業のほか、各支部において研修会を実施しました。日程等の都合により、5支部中3支部の実施にとどまりましたが、環境美化委員の役割の再認識が図れました。				
3110	全市クリーン大作戦の推進	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施 ●————→				
		平成22年度から実施の形態を統一して行うことで、参加団体数が増加してきましたが、遠隔地の自治会ではリサイクルセンターまでの距離の関係で、不法投棄された粗大ごみ等の取り扱いに苦慮しているところでした。 平成23年度からは、6月実施時には不法投棄された可燃ごみと不燃ごみ、10月実施時にはリサイクルセンター、足尾、中宮祠、栗山、湯西川で粗大ごみ、処理困難ごみを対象に実施することで、前年度の課題に対処しました。 前年度と比較し参加団体数は増加しましたが、参加人数が減少しました。これは、実施方法の変更1年目であったためと思われませんが、今後は実施の周知時期を早めることにより、参加人数の増加を図ります。				
3111	ごみのポイ捨て禁止の普及・啓発	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施 ●————→				
		全市クリーン大作戦やその他の集団清掃により、ごみのポイ捨て防止等の環境意識の高揚を目指しているところです。また、ごみのポイ捨て防止のため、ごみ捨て禁止の看板貸し出しも行い、平成23年度は24枚の看板を自治会等へ貸し出し、ポイ捨て防止に努めました。今後も、クリーン大作戦等の集団清掃やごみ捨て禁止の看板の貸し出しを行う他、広報紙を利用した啓発を行います。				

〔セカンドステップ〕

- 3201 容器包装プラスチックのリサイクル施設の検討
- 3202 エコショップの普及・登録推進
- 3203 自主的な環境美化活動の取り組み
- 3204 美化コンクール等地域美化運動の推進

プロジェクト4：「環境にっこの輪プロジェクト」の指標

環境教育・環境学習の推進

1) 環境学習機会の充実

	現状値	(単位)	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	最終31年度
日光環境学習センターの整備			実施完了	完了				H22年度整備
市民対象の環境学習会開催	26	回数/年	36	41				50
『こどもエコクラブ』数	2	団体	2	2				5
環境学習センター来場者数	27,208	人	26,987	20,540				50,000

環境にっこの輪(情報交流)の推進

2) 市民による環境交流・環境学習事業の支援

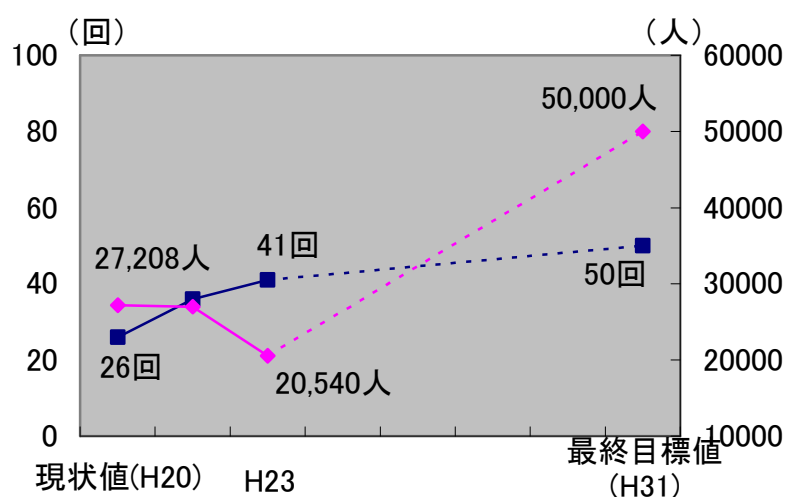
(仮称)日光環境会議の設立				未着手				H22年度設立
---------------	--	--	--	-----	--	--	--	---------

環境情報の整備

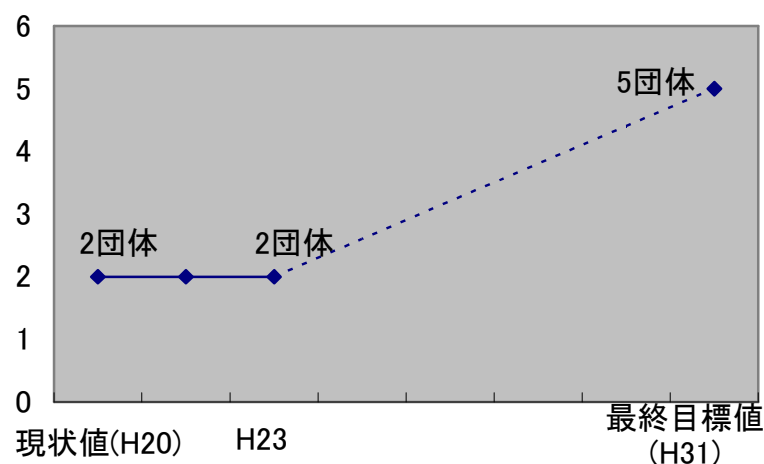
3) 「環境にっこ」等による情報提供

環境機関紙「環境にっこ」の発行		発行数/年	4	4				4
事業者向け環境メール発信事業	17	社	19	19				120

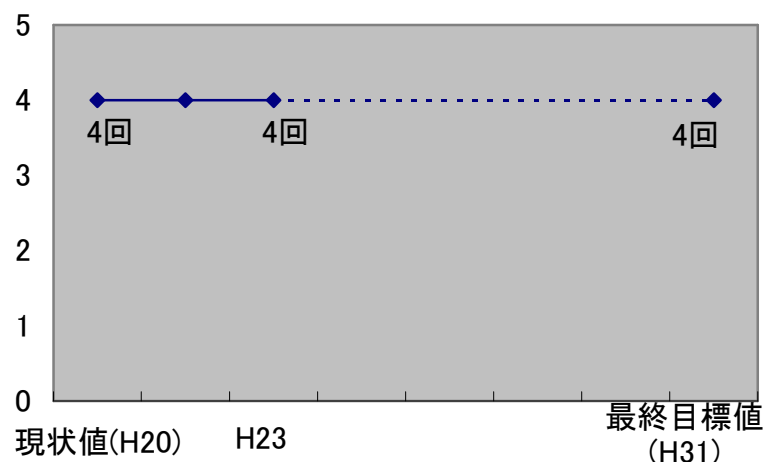
【指標名】 市民対象の環境学習会開催 (回)
環境学習センター来場者数 (人)



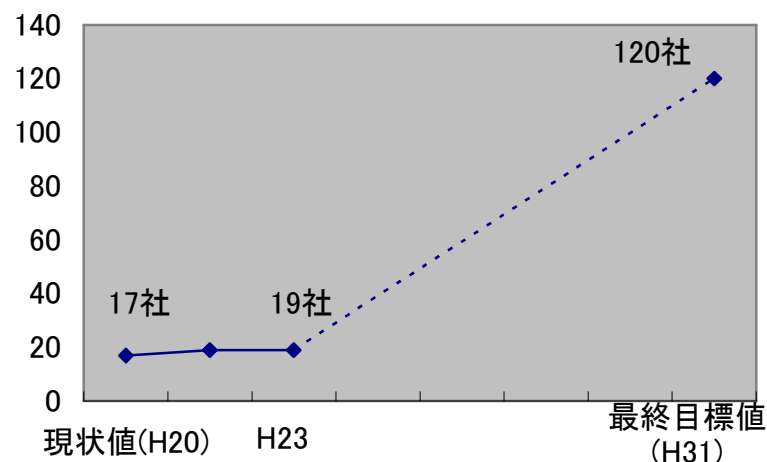
【指標名】 『こどもエコクラブ』数



【指標名】 環境機関紙『環境にっこ』の発行



【指標名】 事業者向け環境メール発信事業



「環境にっこの輪プロジェクト」の実施項目

〔ファーストステップ〕

No	項目	実施状況及び平成23年度実施内容				
		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
4101	学校間環境学習交流の検討	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		未着手 ●	→			
検討について未着手です。今後、日光市環境学習基本方針の策定を進めていくなかで、この内容を含めて検討していく予定です。						
4102	日光環境学習センターの整備	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施 ●	完了			
4103	環境学習指導者の把握と活動支援	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		未着手 ●	→			
今のところ未着手です。今後、日光市環境学習基本方針の策定を進めていくなかで、この内容を含めて検討していく予定です。						
4104	『こどもエコクラブ』の普及	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施 ●	→			
平成24年4月末現在で2団体112名が登録し、活動しています(平成22年度末時点では2団体105名登録)。市は、地方事務局として、市内小中学校に対して普及啓発ポスターやリーフレットを配布したり、登録クラブに対して支援物品や関連資料を配布しています。						
4105	出前講座による環境学習の推進	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施 ●	→			
「ひかりの郷にっこの出前講座」事業で、地球温暖化防止、川の水環境の保全、ごみ減量の3テーマについてそれぞれ1回ずつ、小学5年生計76名を対象に出前講座を実施しました。						
4106	環境保全標語の募集・活用	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施 ●	→			
市内中学校から標語を募集した結果、平成23年度は54点の応募がありました。その中から最優秀賞1点、優秀賞5点を選出し、ポスターを作成・掲示し、また「環境にっこの」に掲載することにより、自然環境の保全及び環境美化の促進に係る啓発を図りました。						
4107	環境学習基本方針の策定	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		未着手 ●	→			
平成23年6月に「環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律」(改正法)が公布され、平成24年6月にはこれに基づき「環境保全活動、環境保全の意欲の増進及び環境教育並びに協働取組の推進に関する基本的な方針」が閣議決定して公表されたところです。法及び方針を鋭意研究しながら、平成24年度中に策定の検討に着手する予定です。						
4108	(仮称)日光環境会議の立ち上げ	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		未着手 ●	→			
今のところ未着手の状況です。ファーストステップの期間内に立ち上げるため、平成24年度には立ち上げの検討に入る予定です。						
4109	「環境にっこの」の発行	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施 ●	→			
年4回発行した中で、平成23年度の主な掲載内容は次のとおりです。 ○節電 ○うちエココンテスト ○ごみステーション管理 ○生ごみ減量作戦 ○無料廃品回収への注意 ○河川水質調査 ○放射線測定器貸し出し ○水のある風景百選募集 ○電気自動車用充電器の設置 等						

4110	事業者向け環境メール発信事業の推進	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施 ●	→			
平成23年度登録事業者数は19件、情報発信数6回にとどまりました（平成22年度登録時業者数19件、情報発信数13回）。発信数が少なかったことを踏まえ、平成24年度は積極的に発信を進めており、8月1日時点で既に7回発信した状況です。また、登録事業者数については、地球温暖化防止に係る事業者アンケート実施時に登録を勧誘するなど、登録数拡大に努めます。						
4111	学校向け環境メール発信事業の推進	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		未着手 ●	→			
今のところ未着手です。今後、日光市環境学習基本方針の策定を進めていくなかで、この内容を含めて検討していく予定です。						
4112	環境のホームページによる環境情報発信	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		実施 ●	→			
環境分野専門のページを設け、随時、最新の情報に更新しています。補助金などの申請書もホームページからダウンロードが可能です。平成23年度末時点で、9分野26項目の情報を掲載しています。						

[セカンドステップ]

- 4201 環境学習教材・副読本の作成
- 4202 環境学習施設のネットワーク化
- 4203 環境学習基本方針の推進
- 4204 (仮称) 日光環境会議の事業実施

4 まとめ（今後の取り組み）

平成22年度に「検討中」「未着手」となっていたファーストステップ10項目のうち、3項目が「実施」に移行した結果、全体の84%が「完了」又は「実施」となっている状況です。ただし、「実施」の項目の中でも、成果指標が思わしくないものがあるため、それらについては実施手法を変えたり、周知を拡大・強化するなど、工夫を重ねて改善を図ります。

東日本大震災から1年以上経過し、国のエネルギー政策は転換期を迎えています。また、国民のエネルギー意識も、震災前に比べて大きく変わりました。この機会をとらえ、日光市も環境負荷の少ない循環型社会の実現に向けて、エコ・環境向上事業に取り組みます。

次に、プロジェクトごとに、今後の改善・強化ポイントをまとめました。

（1）光の環プロジェクト

- 市内で住宅用太陽光発電設備を備える家庭が急増しています。この流れを更に促進するため、補助制度を継続します。
- 県の「EV・PHV タウン構想」と協調して、EV・PHV が走るまちづくりに積極的に取り組みます。充電インフラの整備では、平成23・24年度に市内3施設に電気自動車用の急速及び普通充電器を設置しますが、平成24年度は更に、充電器及び家庭用充電コンセントを設置する事業者・個人に対する補助制度を創設し、市内の充電インフラ普及に努めます。
- 庁用車更新方針を策定し、車両更新時にEV・PHV・ハイブリッド車の積極的な導入を図るものとします。平成24年度までにEV車を計5台導入し、本庁及び各総合支所に配備する予定です。
- 日光市庁舎整備指針に基づき、庁舎等を整備する際には、太陽光発電設備やLED照明を積極的に導入します。建て替えを予定している足尾総合支所や日光消防署に、順次適用します。
- 地球温暖化防止学習会（出前講座）の開催数が減少傾向のため、主に学校に対し、他の事業を通知する際に併せて出前講座を案内し、環境学習に役立ててもらおうよう呼びかけます。
- 日光市全域の温室効果ガス排出量を抑制する計画である「地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」を、平成24年度に策定する予定でしたが、国のエネルギー政策転換により、国の温室効果ガス排出量の目標値が変更されることとなりました。その方向性が平成24年度中に示される予定のため、それを目安に日光市の温室効果ガス排出量計画及び施策を検討し、平成25年度に計画を策定します。

（2）水の環プロジェクト

- 良好な水環境の保全を最優先課題とし、今後も公共用水域の水質が環境基準を維持できるよう、水質の監視を徹底します。
- 奥日光の源流地域の水質悪化は、下流域に大きな影響を与えるため、引き続き地元団体を支援し協力しながら、水質の浄化に取り組みます。
- 小代地区の水田水路に生育する「シモツケコウホネ」が、平成24年5月1日に「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」に基づく国内希少野生

動植物種に指定されました。今後、生育状況の調査を実施し、地元と協力しながら、シモツケコウホネの保全に取り組みます。

- 平成24年度に「日光水のある風景百選」を選定後、百選パンフレットを作成し、市の豊かな水環境について広くPRしていきます。

(3) 資源の環プロジェクト

- ごみ減量化及びリサイクルの啓発において、平成24年度より広報紙による案内からチラシの戸別配布又は組回覧に切り替え、周知強化を図ります。
- 平成24年度より資源物回収協力団体への報奨金上限の拡大、また、生ごみ処理機申請手続き等の簡略化を図るほか、平成25年度以降は古紙収集回数を増やす等、ごみの資源化推進を図ります。
- 平成25年度よりエコショップ制度を導入し、身近な買い物の場面から市民のエコ意識の浸透を図ります。
- 住居周辺を清掃するクリーン大作戦は、普段特に環境美化を意識していない市民にとって、美化意識を持つきっかけとなる有効な事業といえます。また、住民同士での活動の輪も広がることから、引き続き全市をあげて重点的に実施します。
- 「マイバック運動（レジ袋削減）」について、これまでスーパー等の店頭やイベント会場でのキャンペーンにより啓発を図ってきましたが、別の視点での新たな普及事業について検討します。

(4) 環境にっこの輪プロジェクト

- 平成23年6月に環境学習関係の法改正、続く平成24年6月に関係方針が閣議決定されたのを受けて、「日光市環境学習基本方針」を平成25年度を目途に策定します。方針の中に、学校間環境学習の交流事業や環境学習指導者の活動支援等を盛り込みます。
- 環境をテーマとした市民間の交流及び情報交換の場としての「(仮称)日光環境会議」の設立に、未着手の状況です。平成24年度中に、市内関係団体の調査を行い、ファーストステップ期間内の平成26年度までに団体間の調整を図って、会議の設立を目指します。
- 事業者向け環境メール発信事業において登録数が横ばいの状況にあるため、「地球温暖化対策実行計画(区域施策編)」の検討過程で事業者向けアンケートを実施する際に、併せて環境メールへの登録を促すことで、登録数の増加を図ります。